

# ブラジル特報



## 特集 ブラジルの再生可能エネルギー戦略

- ・ブラジルの再生可能エネルギー：その現状と問題点
- ・風力発電や太陽光発電関連の事例から
- ・ブラジル各地のウィンズパーク写真



あの町この町  
カンポ・グランデ Campo Grande



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail [info@nipo-brasil.org](mailto:info@nipo-brasil.org)

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人：大前孝雄／編集人：岸和田仁

新規会員募集中!  
詳しくは P21 をご覧ください。



## 世界の未来を、ブラジルとつくる。

### 【Business innovation-1】

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。  
たとえばサントス北西のティブラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

### 【Business innovation-2】

貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

### 【Business innovation-3】

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農業で支え、増産や品質向上に貢献。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産



MITSUI & CO.

## 目次

あの日この町  
カンポ・グランデ [小林雅彦] ..... 3

ブラジル・ナウ  
コロナ禍で膨れ上がる格差のコスト [河合沙織] ..... 5

【特集】ブラジルの再生可能エネルギー戦略  
ブラジルの再生可能エネルギー：その現状と問題点  
[大林ミカ] ..... 6

【特集】ブラジルの再生可能エネルギー戦略  
風力発電や太陽光発電関連の事例から  
[「ブラジル特報」編集部] ..... 9

【特集】ブラジルの再生可能エネルギー戦略  
ブラジル各地のウインズパーク写真 ..... 10

「日系社会実態調査」で見た  
どれだけ婦人会とヤキソバが日系社会を支えたか  
[細川多美子] ..... 11

ブラジル現地報告  
割り勘の美德 [朴鐘珠] ..... 12

連載・日系企業シリーズ  
山九のブラジル事業 [西野和博] ..... 13

連載・ビジネス法務の肝  
ブラジルにおけるドローン規制 [柏 健吾] ..... 14

連載・税務の勘どころ  
社会負担金 (PIS/COFINS)の課税標準額に関する  
2021年5月13日の連邦最高裁判所の判決  
[ジュリオ・アシス/三上智大/吉田幸司] ..... 15

エッセイ  
ブラジルの歯科 (その1) [星淳子] ..... 16

ウーマン・アイ  
ブラジルでは果物は買わないもの? [櫻井聖子] ..... 17

ジャーナリストの旅路  
ブラジル9年目に思う [市川亮太] ..... 17

連載・文化評論  
追悼：建築家にして政治家ジャイメ・レルネル  
クリチバを環境モデル都市に変貌させた非ユダヤのユダヤ人  
[岸和田仁] ..... 18

最近のブラジル政治経済事情 ..... 19

キャンパス・コラム  
初めてのブラジル留学 [竹平健一] ..... 19

新刊書紹介 ..... 20

連載・ブラジルあれこれ  
パウロ・シャーベス (1) ..... 20

協会からのお知らせ ..... 21



写真＝永武ひかる  
「表紙のひとこと」  
「風吹き渡るセアラ州カノア・ケブラーダの浜。投網漁ひとり、その遠景に白い風力タービンが眩しい。近づいてみると超巨大。それが何十機と並んでいた。年中、強い風が吹くここ北東部はブラジルの風力エネルギーを先導する地域だ。」  
永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」(備成社)等。  
www.hikarunphoto.com

あの町、  
この町

## カンポ・グランデ Campo Grande

カンポ・グランデ市は、ブラジル中西部に位置する南マト・グロッソ州 (Estado de Mato Grosso do Sul) の州都だ。1977年、20世紀初頭以降続いた分離運動の末、マト・グロッソ州の南部が分離して南マト・グロッソ州として新しい州になった際、州都 (Capital) に定められた。



州のほぼ中央に位置する同市の面積は約8083km<sup>2</sup> (IBGE)、人口は約90万人 (2020年、IBGE 推計) だ。もともと南マト・グロッソ州のある地域は、旧マト・グロッソ州の中でもサンパウロ州やパラナ州、ミナス州に近いという立地上の好条件により経済や物流が発展してきたが、カンポ・グランデ市はその中心だ。

20世紀に入りドイツ系、東欧系はじめ外国人の移住が本格化する中で鉄道事業に従事した沖縄の人々を中心とする日系社会も存在感を示してきた。1990年代の初めごろ当時勤務していたサンパウロからよく同地に出張した。その際、州議会議員 (PSDB) をしていた日系のアクラ・オオツボさんにお世話になった。オオツボさんは、州議会議長を務めた地元の有力政治家で、その後連邦下院議員 (PMDB) として国政の場でも活躍している。根っからの政治家らしく、83歳の現在も州南東部のバタグアスー (Bataguassu) 市の市長 (MDB) を務めている。オオツボさんは、日本との関係強化に尽力されていたが、1995年には、清子内親王殿下が南マト・グロッソ州を訪問され、州政府・日系社会はじめ地元官民の大歓迎を受けられた。

オオツボさんとの思い出の一つは、伺うたびに地元の魚料理を提供する大衆レストランに案内してもらったことだ。パンタナールで獲れるパクー (pacu) やピンタード (pintado) といった淡水魚の想像以上の美味しさに感動したものだ。あまりきれいでない大衆的な魚料理専門店のお店に行って塩だけで焼いたりフライにした素朴な料理を頼むのがコツだ。



▲沖縄そばはモニュメント

最近カンポ・グランデ・グルメとして有名になったのは、「沖縄そば」だ。沖縄そばは、2006年に州の「無形文化遺産」に指定され、2017年には、州の「郷土食コンテスト」で40%以上の支持を集めて堂々の第1位に選ばれた。毎年8月には、「ソバ・フェスティバル (Festival do Sobá)」が開催され、ブラジル全土から非日系のそば好きも多く参加するそうだ。会場のフェイラ・セントラル (Feira Central) には巨大な沖縄そばのモニュメントがあり、町の観光名所の一つになっている。



小林雅彦 (協会理事)

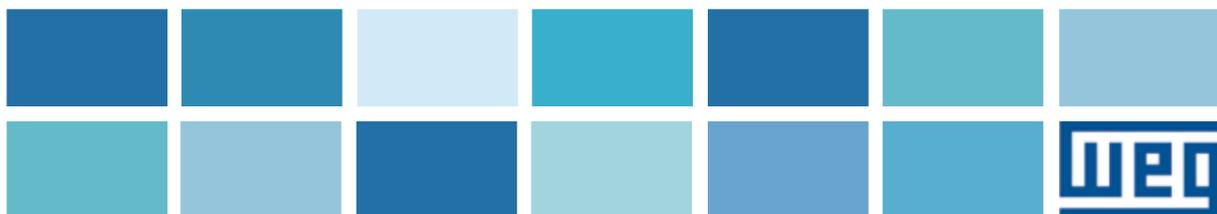
# 究極の効率で 持続可能な社会へ



近年、急激な人口増加や地球温暖化などの社会問題への関心が世界的に高まっています。**WEG**は、優れた技術力・ノウハウでよりエネルギー効率が高く、より環境に優しい製品を開発しています。



IE4/IE5  
Perment Magnet Motor



## ウェグエレクトリックモーターズジャパン株式会社

たしかな技術と、世界に広がるネットワークであらゆる場面のニーズに応えます。

世界のモーターの  
リーディングカンパニーとして

- 住所 神奈川県横浜市西区高島2-19-12 横浜スカイビル20F
- Twitter [https://twitter.com/weg\\_wr](https://twitter.com/weg_wr)
- YouTube <https://youtube.com/user/wegvideos>
- 電話 045-550-3030
- ホームページ <https://www.weg.net>

WEGブラジル本社は9月に創立60周年をむかえます。



## コロナ禍で膨れ上がる格差のコスト

2021年6月4日現在、COVID-19による死者数が47万人を超えるブラジルは、ボルソナーロ大統領によるパンデミックの矮小化、保健大臣を含む度重なる閣僚の交代劇、連邦最高裁判所（STF）を巻き込んだ連邦政府と州政府・ムニシピオの間での感染症対策に関する対立など政治的混乱は収まる気配がない。ワクチンの接種は進むものの、ウィルスの感染拡大をコントロールして人命を守り、経済社会活動を取り戻す道筋はいまだ見つけられていない。上院に設置された新型コロナウイルス感染症対策に関する議会調査委員会（CPI da Pandemia）では、科学的根拠に欠ける医薬品の生産と使用の推奨、マナウスにおける医療用酸素ボンベの不足、Pfizer製ワクチン購入交渉過程での失策など、ボルソナーロ政権に不利な情報が次々と明らかになっている。5月29日には、コロナ禍での連邦政府の対応をジェノサイドと位置づけ大統領を非難する大規模なデモがブラジル国内外の複数の都市で開催された。州やムニシピオのレベルでは、治安や公共秩序の維持を担う警察官による暴力事案が頻発している。これらは、英語でinstitution(s)と表現される、制度や機構、組織などによって形づくられる政治的・経済的・社会的な「しくみ」の脆弱さを表しているとして理解できる。

大統領本人は、2022年選挙での再選を最優先事項とし、自らの主張を正当化するための情報発信とメディアへの批判を繰り返している。最近では、政情不安やコロナ禍を理由にアルゼンチンとコロンビアが開催を辞退したコパ・アメリカ（2021年サッカー南米選手権）の招致に合意したことも報じられた。COVID-19の感染拡大が始まり約1年半が経ち、マスクの着用や手指のアルコール消毒など基本的な感染予防対策の効果が明らかになった今でも、支持者との接触を通じた露出が報じられる度に、マスクの着用やsocial distancingと呼ばれる6フィート（1.8メートル）程度の距離の確保が軽視されている様子が窺える。ボルソナーロ支持者は大統領の発するメッセージを額面通りに受け取り、2022年の選挙に向けた支持をより強固なものにする。他方、増え続ける傾向にある不支持層との溝は深まるばかりに見える。

現3年生のゼミで輪読しているOxford大学のDiego Sánchez-Ancochea教授の著書『The Costs of Inequality in Latin America: Lessons and Warnings for the Rest of the World』では、歴史的に根強い格差が残るラテンアメリカの国々が直面する苦難を、経済、政治、社会面でのコストと捉え、背後にあるメカニズムを論じるとともに“ラ

テンアメリカ化”が進む世界に警鐘を鳴らす。なかでも、格差が大きな社会では、生産性の上昇につながる教育やイノベーションへの投資が進まず長期的成長率が低くなりやすいと指摘する。ブラジルの過去30年間の平均成長率を計算すると、2.2%程度にとどまっている。無論、コロナ禍でも好調を保つアグリビジネス関連の産業を抱える中西部や北東部の一部の州では5%前後の平均成長率を記録する地域もある。2021年第1四半期の失業率が14.7%に上り、州によっては20%を超えるケースも散見されるなかで、大規模な土地や資本にアクセスできる層とその他大勢のギャップはますます広がる傾向にある。

さらに深刻なのは、同書の中で「educational apartheid」と表現される教育分野での格差である。教育面での格差は、労働市場を通じた所得格差のみならず社会階層・各グループ間の対立を伴う政治的不安定性を高めるという意味において、長期的な副作用を引き起こす政治的なコストをはらむ。二極化が深刻化する社会では、公共政策や経済発展の方向性に関してコンセンサスを得ることが困難になり、昨今では、感情的分極化（affective polarization）が事態をさらに悪化させる可能性が指摘されている。2020年11月に実施された地方選挙の結果をもとに、経済社会的データと有権者の投票行動を統計的に分析する限り、ブラジル社会における政治的分断が解消される方向に進むという根拠は、少なくとも筆者らが実施中の共同研究では今のところ見つけられていない。国際機関等の報告書によると、パンデミック下での学校閉鎖は近年ブラジルで課題とされてきた教育の質の格差だけでなく、教育へのアクセスという点でも不平等な影響をもたらしている。コロナ禍が残す傷跡は、格差の悪循環に助長されブラジル社会に根深く残る可能性がある。

本稿を執筆しながら、Gilberto Gilの「A Novidade」が頭から離れない。コロナ禍という予期せぬ事態を差し引いたとしても、奇跡を起こすべく現れた“新星”に託した夢が、恐ろしい悪夢に変わるといった流れをブラジルは繰り返しているようにも見えるからだ。今年は干ばつの影響で水不足が懸念されている。全発電量の約6割を水力発電に頼るブラジルでは、水不足はすなわち電力危機を誘発する。前回大規模な電力不足が起きた2002年は、選挙結果にも影響を及ぼした。2022年の選挙に向けて、本号で特集される再生可能エネルギー戦略の動向について勉強したい。

河合沙織（龍谷大学国際学部准教授）

# ブラジルの再生可能エネルギー その現状と問題点



大林ミカ  
(自然エネルギー財団 事業局長)

## ブラジルの自然エネルギー

ブラジルは発電量に占める自然エネルギーの割合が85%に達しており、主要国内ではもっとも多い。水力発電が最大の電力源であり、ブラジルの発電量の66%を占めている。

ブラジルは、これまで10年近くにわたってギガワット級の水力発電容量を開発してきた。ブラジルの水力設備

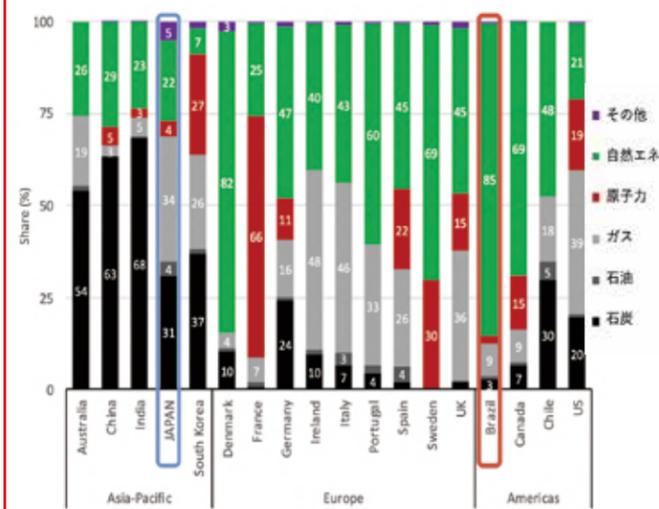
容量は中国に次いで2番目に大きく、2020年末までに108GWを導入しており、水力が、国内で稼働中の電力容量全体の62%を占める。

しかし一方で、これまで幾度となく、大型水力発電開発による環境破壊が指摘されてきた。アマゾンでの巨大ダム開発は、地域の貴重な生態系や先住民の暮らしを脅かし、河川の流れそのものにも大きな変化を引き起こしている

という指摘だ。ダムへの過剰依存は、渇水時に電力不足をもたらすリスクもあり、実際にも、ブラジルは2001年に渇水による深刻な電力不足を経験している(2021年も夏の記録的な干ばつによる水不足が懸念されている)。

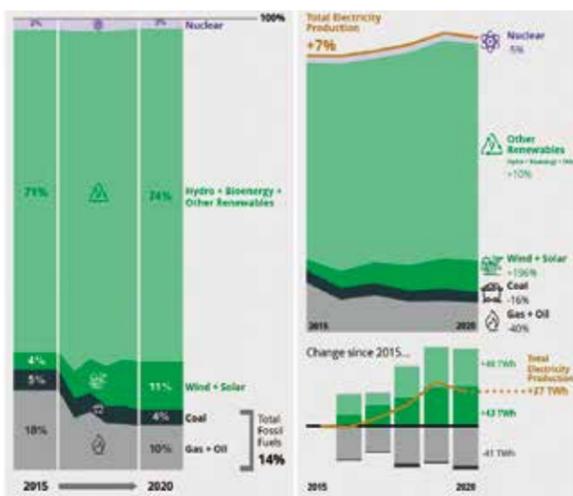
こうしたことから、ブラジルにおいても、次第に大型水力への依存を減らし、その他の自然エネルギーを増加させていく努力が進められている。な

2020年 各国の発電ミックス (送電端)



出典) IEA (2021) より自然エネルギー財団作成

電源構成 各電源の発電量に占める割合



出典) Global Electricity Review: BRAZIL - Wind and solar are meeting Brazil's rising electricity demand." Muyi Yang + Pete Tunbridge, March 2021

1) 発電容量(設備容量、capacity)とはその発電設備がどれだけ発電できるかの能力を指し、発電電力量とは実際に発電した電力量の合計を指す。例えば100kWの発電所が50%の利用率で24時間発電した場合、100kWx0.5x24hrs=1,200kWhとなる(年間発電電力量を出すためには8760時間を適用する)。一般的に、どれだけ発電設備が導入されたかは容量(kW)で表し、発電/消費した電力エネルギーを表す際には電力量(kWh)で表す。発電設備や電源によって、設備利用率(capacity factor)が異なるため、設備容量とともに電力量であらわすことが必要となる。

2) 「アマゾンでダム建設ラッシュ、今後も数百カ所に」、National Geographic、2015年4月28日、<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/042400071/>

3) 「(ブラジル)記録的な干ばつで水不足=電力危機やインフレ懸念も=2001年の悪夢再び?」、Jornal ニッケイ 新聞、2021年6月4日、<https://www.nikkeishimbun.jp/2021/210604-12brasil.html>

4) 有機資源を原料とする液体または気体の燃料で、主にエタノール、バイオディーゼル、バイオガスなどがある。バイオ燃料は、輸送用燃料として自動車のエンジンで燃焼させたり、熱・発電用の定置型エンジンで燃焼させたりする。従来のバイオ燃料としては、主に小麦やトウモロコシなどの糖質やデンプンを発酵させて製造されるエタノールと、パーム油やカノーラなどの油脂を原料として製造されるFAMEバイオディーゼルがある。先進的バイオ燃料は、バイオマスの中でもリグノセルロース系のものや藻類を原料とする。これらの燃料は、生化学的および熱化学

的な変換プロセスを用いて製造されるが、その中にはまだ開発中のものもある。

5) 大豆、菜種(カノーラ)、パーム油などの油糧作物や、廃食用油、動物性油脂などの油脂を原料として製造される燃料である。バイオディーゼルは、自動車、トラック、バスなどに搭載されていないディーゼルエンジンや、定置型の熱電併給設備に使用されている。バイオディーゼルの多くは、植物性油脂(ヤシ油、大豆油、カノーラ油、一部の動物性油脂など)を化学的に処理して脂肪酸メチルエステル(FAME)を生成している。

6) 有機資源(一般的にはトウモロコシ、サトウキビ、小規模な穀物など)を原料とする液体燃料で、通常の火花点火エンジン(据え置き型または自動車)で使用する場合はガソリンに比べて少ない割合で代替することができ、「フレックス燃料」車に搭載されているような若干の改良を加えたエンジンでは、より高い混合率(通常はエタノール85%まで、ブラジルでは100%)で使用することが可能。

7) "The Amazon: biofuels plan will drive deforestation," Nature, 2020, <https://www.nature.com/articles/d41586-020-00005-8>

8) "New study shows illegalities in 94% of converted ecosystems in the Amazon and the Cerrado," WWF Brazil, 2021, [https://wwf.panda.org/wwf\\_news/?2518441/New-study-shows-illegalities-in-94-of-converted-ecosystems-in-the-Amazon-and-the-Cerrado](https://wwf.panda.org/wwf_news/?2518441/New-study-shows-illegalities-in-94-of-converted-ecosystems-in-the-Amazon-and-the-Cerrado)

より、太陽光や風力の自然エネルギーのコストがめざましく下がっていることがこれを後押ししている。

## 風力・太陽光の加速

ブラジルは、2020年の風力発電導入量で初めて世界トップの国々の仲間入りをした。2019年の3倍にあたる2.3GWの風力発電容量を追加した。太陽光発電については、2019年比68.6%増の31GWだった。

発電量においても、風力・太陽光発電は、2015年の22TWhから2020年には64TWhへと、2015年から2020年の間に年平均40%の成長を遂げている。これに対し、水力・バイオエネルギーは2%、石炭は3%、ガスは6%の減少となっている。

ブラジルの発電構成では、2015年以降、風力と太陽光が化石燃料に取って代わった。化石燃料による発電量は、2015年の128TWhから2020年には82TWhへと36%(-46TWh)減少し、そのうちのほぼ90%(41TWh)が石油とガスによるものだった。この結果、ブラジルにおける化石発電のシェアは、2015年の23%から2020年には14%へと9%減少し、同時に風力・太陽光発電の割合は7%増加している。つまり、風力・太陽光が化石燃料に代わって発電ミックスに組み込まれていることが示唆される。この傾向は、ブラジルの電力業界が、増加する電力需要を満たすために、化石燃料(主に石油やガス)ではなく、風力や太陽光で水力発電を補う方向にシフトしていることを示している。

特に2020年には新型コロナウイルスの影響で電力需要が減少し、ブラジルではさまざまな電源からの発電量が減少したが、風力・太陽光による発電

量は2.6%増加している。

## バイオエネルギー

ブラジルは、バイオエネルギーの生産と利用において、引き続き世界を牽引している。稼働中のバイオエネルギー発電容量は世界第3位である。発電のほとんどがサトウキビのバガスを利用した発電である。2020年には、砂糖の生産量とそれに伴う発電量の減少に伴い、推定10%減の50TWhとなっている。

また運輸用バイオ燃料については、米国に続き世界第2位の生産国であり、世界の生産量の26%を占めている。2020年のブラジルのバイオディーゼル生産量は、国内需要の増加に対応するため、9%増の64億リットルと過去最高を記録した。バイオディーゼルの生産量の増加により、この分野の雇用は、2019年の29万4,900人から2020年には32万3,800人に増加した。対照的に、バイオエタノールの雇用は、機械化の進展により原料作業における手作業の必要性が減り、2018年の推定57万4,400人から2019年には推定54万7,300人に減少し、減少が続いている。バイオ燃料の普及政策としては、各国でも行われている「バイオ燃料混合義務」が実施されている。2020年初頭、ブラジルはバイオディーゼルの最低混合率を11%から12%に引き上げたが、COVID-19危機の結果、一時的に10%に引き下げを行っている。

バイオエネルギーについても、大型水力ダムの開発と同じ環境問題が指摘されている。エタノール生産の原料となるサトウキビの作付面積が急増し、自然環境破壊が進む、先住民の生活を脅かす、耕作地を巡る他の食用作物と

競合するという問題である。

2021年5月に、ミナスジェライス連邦大学(UFMG)、Instituto Centro de Vida(ICV)、森林農業管理認証機関(IMAFLOA)の共同調査チームは、アマゾン熱帯雨林と、ブラジル北部4州に広がる「マトピバ」地方の低木地帯セラードで実施されている熱帯雨林や森林破壊の94%が、違法な伐採によるものとする調査結果を発表した。

しかし、持続可能なバイオエネルギー生産も模索されている。食材と競合しない第2世代バイオ燃料の開発や土地の利用規制などである。

## 自然エネルギーの導入政策

市場への大規模な自然エネルギー発電設備の導入には、2019年からリバースオークションを実施しており、これまでに30GWの自然エネルギーがこれによって低価格で導入された。2020年は新型コロナウイルスの影響で入札が延期されたが、2019年の太陽光発電入札の平均価格は17.5ドル/MWh(約1.8円/kWh)と過去最低であった。

また、企業の自社消費エネルギーのグリーン化という観点から、需要家が直接自然エネルギー設備と契約を結び、長期にわたって購入する、Public Purchase Agreement(PPA)が活発となってきている。メキシコでは2020年に企業による自然エネルギーのPPAがほとんどなくなったのに対し、ブラジルでは記録的な1GWの企業による自然エネルギーPPAが締結されている。競争入札では熾烈な価格競争が行われるため、入札が市場の価格圧力を高めているいくつかの国では、直接PPAの重要性が高まっている。電力入札よりもPPAの方が事業



## ブラジルの再生可能エネルギー その現状と問題点

者へのリターンが大きい場合があるからだ。

比較的小規模な太陽光の導入に際しては「ネットメタリング」が実施されている。小売電気事業者は、5MWまでの自家発電設備を設置して余剰電力を供給し、その後の請求クレジットという形で補償を受ける。この政策により、分散型太陽光発電ブームが起こり、2015年にはゼロに近かった小規模太陽光発電の容量が、2020年末には5GW（直流）を超えるまでに急増した。

構造的には、電力市場は完全にアンバンドリングされており、国有企業と民間企業がほぼ均等に存在している。

自然エネルギーへの投資も進む。2020年のブラジルの自然エネルギー設備投資は23%増と7年連続で増加、世界の自然エネルギー設備投資の2.9%を占めた。2010年から19年の間に、大型の自然エネルギー発電所向けに580億ドル近くの新規アセットファイナンスを誘致しており、これは同期間中のラテンアメリカでの最大規模となっている。風力発電が全体の58%、太陽光発電が9%を占めている。分散型太陽光発電は、2016年から19年の間にさらに32億ドルの投資を集めており、2019年はこのうち71%以上を占めた。

### 気候危機問題への対応

世界で加速する自然エネルギーを軸としたエネルギー転換の、自然エネルギーのコスト低下と並んでもう一つの

ドライバーは気候変動問題だが、この問題へのブラジル政府の取組は、残念ながら高い評価を受けているとはいえない。

ブラジルは、パリ協定に2016年に批准し、自国の温室効果ガスの排出削減目標（NDC）を定め、その改訂版を2020年12月に提出した。新しいNDCは、米国と同じく2005年を基準年とし、2025年までに37%、2030年までに43%の削減目標を設定したが、他方で、基準年である2005年の温室効果ガス排出量の見積もり値が変更できるとしている。つまり、2016年に提出したNDCでは2005年時点の二酸化炭素排出量を21億トンとしていたのに、2020年のNDCでは28億トンと見積もりを変更し、実質的に後退した目標を定めたのである。

しかしポジティブな動きもある。2020年版のNDCには、長期目標と

して2060年までのカーボンニュートラル（資金的移転を受けられることを条件として）を盛り込んだが、ボルソナーロ大統領は、2021年4月に開催された米国主催のクライメイト・サミットで、これを10年前倒しする2050年までのカーボンニュートラルを宣言した。また、「2030年までに違法伐採を根絶することを約束する。これによって排出削減目標の約半分は達成できる」とも約束している。

以上、最近のブラジルの自然エネルギー関連の動きを見てきた。そもそも自然エネルギーの占める割合が非常に高いブラジルだが、風力・太陽光が次第に化石燃料に置き換わっている現状など、さらなるエネルギー転換が起きている。世界でも貴重な、豊かな自然環境と生物多様性を保全しつつ、持続可能な社会の構築に向けて次のステップへと進むことを望む。

世界ランク 自然エネルギー 発電容量 (2020年末、GW)	人口一人あたりの 水力をのぞく 自然エネルギー 導入容量 (2020年末、GW)	2020年における 新規の風力発電 導入 トップ各国 (GW)
1. 中国 (908)	1. アイスランド (2.1)	1. 中国 (52.0)
2. 米国 (313)	2. デンマーク (1.7)	2. 米国 (2.3)
<b>3. ブラジル (150)</b>	3. スウェーデン (1.6)	<b>3. ブラジル (2.3)</b>
4. インド (142)	4. ドイツ (1.5)	4. オランダ (2.0)
5. ドイツ (132)	5. オーストラリア (1.1)	5. スペイン (1.7)
6. 日本 (104)	… <b>41. ブラジル (0.2)</b>	6. ドイツ (1.7)

## 風力発電や太陽光発電関連の 事例から 『ブラジル特報』編集部

### PROINFA (代替電力源促進プログラム)

F・H・カルドーゾ政権（二期目）が、風力、地熱、太陽光、バイオエネルギーなどの再生可能エネルギーによる代替電源開発促進計画 PROINFA を公表したのは2002年であった。ブラジルにおける再生可能エネルギー関連の投資が本格化するのには、このプログラム公表が契機となっている。クリーンエネルギーのなかでも、環境アセスや設置工事で長い時間を必要とする風力発電の場合、風力タービンの新設基数が急速に増加するのは2010年代にはいつてからである。

### 風力発電出力の 州別ランキング

ABEEolica（ブラジル風力エネルギー協会）の公表データによれば、2021年2月時点でのブラジルにおける風力発電出力の総計は18GWとなっており、これは全発電量の10.3%に相当する。電源分野別にみると水力発電のシェアが58.7%で一位なので、風力発電10.3%は二位である。全国に設置された風力タービンの数は8,300基となり、ウィンドパーク（風力団地）の数は695となっている。10年前の数値（ブラジル全土の総計が1GW弱）を思えば、10年間で18倍と急激に風力発電出力が伸長してきたことが確認できる。

今年2月時点での州別の風力発電出力  
(単位:MW) ランキングは次の通り。

- ①リオグランデ・ノルチ州 ……5,154
- ②バイーア州 ……4,879
- ③ピアウイ州 ……2,276
- ④セアラ州 ……2,179
- ⑤リオグランデ・スール州 ……1,835
- ⑥ベルナンブーコ州 ……798
- ⑦マラニャン州 ……426
- ⑧サンタカタリーナ州 ……238
- ⑨パライーバ州 ……157
- ⑩セルジッペ州 ……34

ブラジルの地域別でみると、ノルデスチ（北東部）がブラジルにおける断トツの風力発電先進地域であることがわかる。（ベストテンのうち、8州がノルデスチに属している。）

### シーメンス・ガメサの ブラジル事業

老舗総合電機メーカー、シーメンスの風力発電部門とスペインに本社を置くガメサ社（風力発電分野では世界第2位）が合併したのが2017年であった。新会社 Siemens-Gamesa Renewable Energy にとって、主要な事業を展開している国の一つがブラジルである。



風力発電パークの多くがノルデスチに設定されていることから、需要地に近いバイーア州カマサリ市に工場を開設し、ハイテク風力タービンを主体に製造を増大中である。現在の同社のブラジル市場シェアは20%余りとのことだが、同社の連結売上高に占めるブラジル事業の割合は現在数パーセントのレベルであり、これを10%以上に引き上げるというのが当面の目標として確定している由だ。

### Brennandグループの 風力発電事業

ベルナンブーコ州の伝統的実業家ファミリー Brennand は、サトウキビ事業から始まって、1950年代からは事業を多角化し、セラミック（レンガ、タイル、磁器）、ガラス、セメントなどで地歩を固めてきたが、2000年代に入って、新規参入したのが、小規模水力発電や風力発電の分野である。

彼らの風力発電の事業地として選定したのが、バイーア州セントセ市だ。同市はサンフランシスコ河を堰き止めて完成した南米最大の人造湖ソブラディーニョの南側に位置し、同地域の中心都市ベトロリーナからの距離は150kmほどだ。

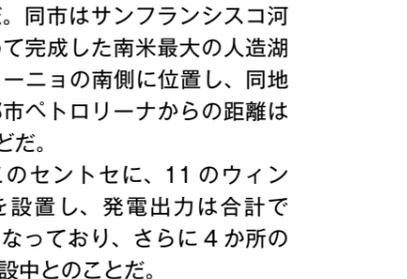
現在、このセントセに、11のウィンドパークを設置し、発電出力は合計で341MWとなっており、さらに4か所のパークを増設中とのことだ。

### BRFが展開する 太陽光パネル付き鶏舎

チキン主体の食肉加工業界で1位と2位のトップ争いを展開していたSADIA社とPERDIGÃO社が合併して生まれたのがBRF(Brasil Foods S.A.)であるが、最近様々なESG（環境・社会・統治）投資計画を発表してきている。昨年2020年12月に公表した“Visão 2030”（2030年の未来図）は、2030年までの10年間で再生可能なクリーンエネルギーの自社発電能力を50%以上増大する、というコミットメント宣言であった。

この会社方針に則りBRF社がBB（ブラジル銀行）と契約したクレジット・ラインは2億レアル（約40億円）である、と3月11日、同社がメディアに発表した。同社の説明によると、BRF社の契約養鶏農家650軒を対象とし、各農家当たり25万〜30万レアル（約500-600万円）の光パネル投資（鶏舎の屋根に光パネルを設置）を促していくというものだ。養鶏農家にとっては、毎月の電気代節減となるため、数年で投資回収できる由だ。既に多くの養鶏農家がこの特別融資プログラムへの申込みを表明している。

Brennand Energy社のウィンドパーク（バイーア州セントセ市）



太陽光パネル付き鶏舎（養鶏場）▶

# ブラジル各地の ウィンズパーク写真

ブラジルの風力発電所数 (2019年2月)

リオグランデ・ド・ノルチ州	150
バイーア州	135
ピアウイ州	60
セアラ州	80
リオグランデ・ド・スール州	80
ペルナンブーコ州	34
マラニャン州	12
サンタカタリーナ州	14
パライーバ州	15
セルジッペ州	1
リオデジャネイロ州	1
パラナ州	1



北東部 セアラ州 バラジュル海岸



北東部 リオグランデ・ド・ノルチ州



最南部 リオグランデ・ド・スール州(パンパ平原)



北東部 セルジッペ州



## 「日系社会実態調査」で見た どれだけ婦人会とヤキソバが 日系社会を支えたか



細川多美子  
(サンパウロ人文科学研究所常任理事)

ヤキソバこそが日本食の帝王。ブラジル国内では現状、そのような存在だと思う。日本食の初心者ほどそう思う傾向があるようだが、エキゾチックで手が出にくくコストが高いスシ、サシミを前に、そこまで日本食の裾野をブドーサー的に広げる原動力になったのがヤキソバだ。

すでにご承知のとおり、ブラジルのヤキソバはソース味ではない。あんかけ醤油味が基本で、各地のヤキソバを見る限り、決まったレシピはない。元々は日系製麺業者がマーケティングのために地元地域への働きかけをしたとの説があり、それが火付け役となったのかもしれない。その後、全国に急速に増えた日本食屋での成功と日系団体での成功とどっちが先だったのかはわからないが、ヤキソバ人気は急伸した。日系団体が行う日本祭りや盆踊り、農産物イベントなどでの目玉商品となり、爆発的に売れたことで、ブラジル社会でその名が広まった。

これは売れる、という評判は、見えないネットワークでつながる日系社会にあつという間に広まった。

世の中の価値観や経済が多様化し、日系団体が運営費を寄付に頼ることができなくなった20世紀の終わりの頃から、自らの手で資金を生み出す手段としてあちこちで採用されたのがヤキソバだった。地域によってその道具は、うどんだったり、お好み焼きだったり、スキヤキだったりするが、「日系社会実態調査」を行った調査員の頭には、圧倒的な勢いでヤキソバがなだれ込み、これぞ会館を支える食べ物、日系社会における資金源の代名詞くらいの観念ができてしまった。「ブラジル人の間でヤキソバが人気」などという表現では生ぬるいのだ。そのくらいの仕事をヤキソバはしてきた。ブラジル全国に広がる日系社会の中核になっている地域代表の日系団体約430軒に対し、実際に調査した結果は以下のとおりだった。

「資金捻出を目的に手料理で次のものを作って販売していますか?」という質問に対し、ヤキソバと答えたのは414団体中263団体(64%)、次点にスシ・テマキで219団体(53%)。そのあとに、菓子(マンジュウ、ドラヤキなど)、シュラスコ、テンブラ、うどん、スキヤキと続く。そんなものかと思われるかもしれないが、驚くべきはその販売数で、「1回のイベントで販売する数量」は、最多で15,000食、1団体平均907食を作って売っているという結果になった。

「ヤキソバのタベ」、「ヤキソバ祭り」、「ヤキピンゴ」(ヤキソバ+ピンゴ)といったヤキソバをメインにすえたイベント

も数が多く、年間に何度も行うところも少なくない。露骨な資金稼ぎにも見えるが、これで団体内での若者たちのスポーツ活動や日本語学校の運営資金が賄えていることを考えれば買う方も応援したくなる。

しかし、それだけの量を作るのは並大抵のことではない。かつてマトグロッソドスール州のドウラードスで調査を行った際、帰りの足まで時間があつたので、裏方でお手伝いをさせてもらった。ほとんどの作業が婦人部の手で行われており、手順や役割分担の計画がよく練られ、手際よく仕事が進んでいた。次々届く野菜を丁寧に洗って切って、分量をそろえて、味には厳しい先輩が見張る中、調理が進んでいく。朝から晩まで黙々と、時に井戸端会議を繰り広げながら。生身の人間のやることだから、きれいごとばかりではないであろうし、平均年齢70歳に近い婦人会の中で働くには見えない掟もあるかも知れないから、私は周りの皆さんと足並みをそろえる努力をしつつ、巨大なセロリを刻み続けた。こういうところの包丁は切れないものだと思っていたが、すべてきれいに研がれていた。

とある日系イベントの組織力に感心したアラブ系団体が、自分たちもそのようなイベントをやりたいからと日系団体に指南を請うので、仕組みを教えたところ、自分たちにはとてもできないと諦めて帰ったそう。あれだけのことをボランティアだけで運営するのはとても無理だというのだ。

ヤキソバが収益をあげられる理由は、まず労働力が質の良い婦人という献身的なボランティアによって賄われているからであり、さらに農家の多い地方では材料である野菜が寄付され、場合によっては地元製麺業者も協力してくれるという無償の善意が結晶しているからだ。あのスタイルのヤキソバならば、セロリでもブロッコリーでも白菜でも大抵の野菜が利用可能だということも幸いした。それぞれの地域が自分たちの味を作ることにもつなげた。

各地を巡って、自分は一生涯分のヤキソバ割り当てを食べ尽くし、今後はあえて食べることもないかと思っていたが、コロナ禍で日系団体のイベントがなくなって1年半がたった今、無性にコロナヤキソバが恋しい。



▲ドウラードスのヤキソバ準備隊

▲ブラジルのトラディショナルなこれは

## 割り勘の美德

朴鐘珠

(フロリアノポリスのラーメン店主、元毎日新聞記者)



長年、善意でやってきたつもりで日本人の習わしが過ちだったと最近気づかされた。知らず知らずのうちに重ねてしまった罪は数えきれないだろう。ラーメン屋でレジを打ちながら過去の振る舞いを恥じ、ため息をついている。

私はブラジル南部サンタカタリーナ州の州都、フロリアノポリスでラーメン屋を営んでいる。前職は毎日新聞の記者だった。サンパウロ駐在を最後に、日本へは戻らず、15年ほど勤めた新聞社を辞め、配偶者と4人の子と共にブラジルへ定住した。フロリッパの愛称で知られるこの島のことは、日本の知り合いに伝えても馴染みが薄いようだ。私はいつも、少し得意げに「例えるなら米軍基地のない沖縄みたいなところ」と紹介している。季節を問わず訪れる国内外の観光客の需要にも助けられ、島で初めてのラーメン屋は上々の滑り出しだった。ところが開店2年目でコロナの流行に直面し、経営は暗転。州の緊急事態宣言でレストランの店内営業が禁じられた期間は、ギョウザや唐揚げを詰めた弁当を車で配達し、かろうじて店の家賃を払い続けた。

現在、医療崩壊が峠をひとつ越え、店内営業は再開している。州政府による規制は緩和されたものの、テーブルの間隔を開けなければならず、席数数は従来の半分だ。この間に従業員を減らした影響で、以前は厨房で調理に徹していた私も、表の接客を手伝うようになった。ここブラジルでもコロナ禍は大なり小なり、万人の日常に変化を生じさせている。誰も立ち止まっては、来し方を省み、行く末への教訓を得ようとしているはずだ。私がレジに頻繁に立つようになって気づかされた学びは、奢り文化の弊害だった。

店では、男女のカップルが食事した際、会計はほとんどが割り勘か、各々が注文した分だけを正確に払う。せっかくのデートなら気前の良さを見せればよいのにと思うが、男性が女性に奢る例は少ない。また、親子3代（祖父母、息子娘の夫婦、孫）の家族連れの場合、祖父母は自分たち2人分のみを払い、息子娘の夫婦が、孫も含めた残りの勘定を持つのが多数派だ。これらは「男は女に奢り、年上が年下に奢る」のが粋な作法と信じて疑わなかった日本育ちの私の目に、ケチで野暮ったい行為に映る。更に面倒なのは、5、6人の仲間来店した大学生の男女が皆で色々注文した後、会計では「私はラーメン1杯

と、ギョウザの3分の1」「僕は唐揚げ2個と、瓶ビールの半分」という具合に、腹に入れた分だけを几帳面に精算することだ。計算機を叩く私の手つきはどうしても荒くなり、胸の内で叫ばずにはられない。「ええい、男どもが黙って多めに払えよ！」

だが「男らしくない」「女々しい奴」と舌打ちしていた私のマチズモ（男性優位主義）に根差した価値観は、性的少数者を接客した際に踏み絵を試された。客の中には仲睦まじく体を寄せ合う男性同士、女性同士、あるいは見た目では性も年齢も不詳なカップルも多い。そして彼らもまた、割り勘で払うのが常なのだ。会計を持つのが男らしさ、といった日本的な物差しは、果たして同性愛者にどう当てはめろというのだろうか。カップルのうち「男らしい立場」を担う方が払うべきだとでもいうのか。性的少数者の中には、特に日本だと自らの性的指向を周囲に明かせず悩む人が大勢いる。それなのに若い時分の私ときたら、飲み会の席で「じゃあ会計は男子が4000円、女子が2000円な」などと何の気なしに発言していた。その場にも、心と外見の性が一致しない性的少数者がいたとしたら、公の場で性差のレッテル貼りを強要される苦痛はいかほどであったか。

自分の無神経さに嫌気が差し、悶々とし始めたちょうどそのころ、日本のニュースでは東京五輪組織委の森喜朗会長（当時）の女性蔑視発言が非難を浴びていた。女性に「わきまえ」を求める森氏のような人を私は忌み嫌う。だが森氏はおそらく、私と同じように、飲食代は男性の年配者が負担して当たり前と信じ込む、昔気質の人でもあると思う。日本で美德とされる奢る行為は、実は奢られる側との間に主従関係を作り出す悪因になってはいないか。我々はあらゆる飲食の場面で男性が女性に対し、あるいは年長者が年少者に対して金銭的優位を誇示する関係性に、居心地の良さを覚えながら身を任せてきた。しかしこの慣習が成り立つ前提には、男女間の所得格差と、年功序列の賃金制度がなければならない。奢る、という一見悪意のない行為でも、繰り返されるうちに男性優位、年功序列の従属思想が無意識に刷り込まれていく。結果として、流行語にもなった「付度」や「空気を読む」ことに長けた、身のわきまえ方を知る日本人を社会に蔓延させる一因になったのではないか。

新聞記者をしていた当時はブラジルについて浅い理解しかなかったが、ラーメン屋の店主になり少しずつそれが深まるにつれ、やはり日本を捨てて正解だったと再認識している。日々、食材の仕入れ先や、歳の離れた従業員たち、わがままを言って聞かない客らと丁々発止のやりとりをしながら痛感するのは、互いの年齢、性別、肩書の差に遠慮することなく意見を交わせる風通しの良さだ。「わきまえ」や「付度」など、どこ吹く風といった彼らの気質を象徴するのが割り勘文化なのだろう。そして割り勘文化のおかげもあり、彼らは誰かにへつらうことなく自由に声を上げられるのだろう。

決めた、明日から計算機は優しく扱うことにする。



◀ラーメン店の店内風景（6月8日撮影）

## 山九のブラジル事業

西野和博

(山九ブラジル機工社長)



## ブラジル進出と会社設立

1970年に成立したブラジルのメジン政権は国家鉄鋼計画を策定し、当社は第3期計画（2500万トン体制）に伴う鉄鋼業の発展に対応するため、1971年にサンパウロ駐在員事務所を設立。続いて翌年1月にウジミナス製鉄所3号高炉およびCSN 3号高炉の建設工事受注を機に、現地法人・山九ブラジル機工有限会社を設立した。

## 山九ブラジル 海外事業の基盤確立

ウジミナス製鉄所3号高炉建設にあたり高炉建設の技術とノウハウを、山九ブラジル機工部門を通じて提供し、1974年の大晦日に工事は完成した。山九ブラジルはこの建設工事を機に製鉄所の構内物流分野に進出し、鉄鋼業界の成長とともに業容を拡大して事業基盤を構築した。

当時の中村公三社長は「それぞれの国の経済発展に寄与するために、できるだけ現地法人化しなければならない。」と述べ、海外拠点の現地法人化を進めるとともにその充実・強化に取り組んだ。

現地法人を真に定着化するためには、工事完成後も継続して整備・物流を含め常例作業を獲得し、経営基盤を確立する必要があった。当初ブラジル事業は機工分野のみに留まっていたため、中村社長自らチームを率いてブラジルに渡り、1ヶ月余りに及ぶ集中的な現地調査等を実施しつつ、ウジミナス製鉄所の構内常例作業獲得を目指した。

1976年4月より、ウジミナス製鉄所構内作業の受注を機に本社機能をベロオリゾンテに移し、現在に至っている。当時の従業員数は2100名を超え、イパチンガには従業員の親睦と健康管理の為に「中村公三記念体育館」を建設し、地域社会にも貢献している。

1980年以降は施工実績を重ね、特に1999年以降の高炉改修工事3件は山九と山九ブラジルで共同施工し、南米初のブロック工法を実施した。

## 山九ロジスティクスブラジル有限会社の設立

1993年に山九ブラジルの子会社として山九ロジスティクスブラジル有限会社（SLOG）を設立し、日系企業を中心に国際物流事業としての輸出入通関業務・倉庫保管業務・フォワーダー業務を自社体制で提供している。

2013年8月、SLOGはヘゼンジ地区に物流センターを開設し、リオデジャネイロ港を窓口とする国外調達品のフォワーディング業務からJIT配送まで、一連の業務を可能とする自

社サービス体制を整えた。また、山九の国際複合輸送部・山九USAとともにメキシコからブラジルへの調達物流サービスを構築し、2013年後半から自動車部品メーカーへの一貫輸送サービス提供を開始した。

2013年FIFAコンフェデレーションズカップブラジル大会（ワールドカップ・プレ大会）において、競技用施設の輸送～設置までを受注し、その後の本大会、2016年のオリンピックにおいても設営作業に参画することができた。

## ブラジル人社員の育成と幹部登用

企業の将来創りは人創りがベースである。お客様窓口の全てがブラジル人であると言っても過言でない当社にとって、ブラジル人幹部の育成は過去からの大きな課題であった。

2006年以降、各拠点トップにブラジル人を起用し始め、2014年に全拠点トップをブラジル人とするとともに、当社の経営基盤である「構内事業」全般を管掌するブラジル人役員も誕生し、ナショナル社員の経営参加という新たな一歩を踏み出している。山九からの出向者である日本人が経営層を占めると



いう、長きにわたり存在したナショナル社員にとっての「ガラスの天井」を取り払うまでに至り、ナショナル社員の今後の益々の士気向上と成長が期待できる。



また、技能系社員に関しても、技能教育・安全教育、文化活動などに積極的に取り組み、今後もこのブラジルにおいて山九グループの基本理念である「人を大切にすること」を実践しながら「人を育てる企業、山九ブラジル」で有り続けるよう取り組んでいく。



◀山九ブラジル技能競技会（2020年11月開催）

# ブラジルにおけるドローン規制



柏 健吾  
(TMI 総合法律事務所日本法弁護士  
現在ブラジルで勤務)

## 1. ドローンを利用したビジネスの拡大

ドローンに関するビジネスはブラジルにおいても拡大しており、農業散布や建設インフラの点検などドローンを利用した多くのビジネスが生まれている。また、今後は物流などにおいてもドローンが使われていく可能性がある。本稿では、ブラジルにおけるドローンに関する法的規制の概要について解説する。

## 2. 監督機関

ドローンに関する監督機関は以下の3つである。

民間航空国家機関 (Agência Nacional de Aviação Civil: ANAC)	民間航空の監督をする機関で、ドローンに関する規制の制定及び登録を行う
航空管制局 (Departamento de Controle do Espaço Aéreo: DECEA)	空域の監視を行う機関で、ドローンに関する規制の制定及び登録を行う
電気通信国家機関 (Agência Nacional de Telecomunicações: ANATEL)	無線通信を監督する機関で、ドローンの認証を行う

## 3. 主要な法律・規則

ドローンの登録や許可、飛行場所や飛行方法に関するルールは、主に ANAC 及び DECEA が制定している。ANAC 及び DECEA が制定している規則は多くあり、たとえば、ANAC が制定した RBAC-E 94 (Regulamento Brasileiro da Aviação Civil Especial 94) はドローンに関する主要な規則の一つで、ドローンの飛行のために必要な登録や許可などについて規定されている。また、DECEA が制定した MCA 56-2 は娯楽目的のドローン飛行のルールが規定されている。さらに、ANAC 及び DECEA の規則のほか、航空機に関する一般法である航空法 (1986 年法 7565 号)、民法、刑法、消費者保護法、行政法等も、操縦者に対する罰則、民事上の損害賠償責任、製造物責任、第三者のプライバシー保護等に關連して適用される。

なお、ドローンに関する規制は、ドローンの利用目的が娯楽目的かそれ以外か (商用、研究など) 及び最大離陸重量によって異なる。最大離陸重量は以下の3つに分類され、第三種ドローンは、さらに、最大離陸重量を 250 グラム以下のものと 250 グラムを超えるものに分けられる。

分類	最大離陸重量
第一種	150 キログラムを超えるもの
第二種	25 キログラムを超え 150 キログラム以下のもの
第三種	25 キログラム以下のもの

## 4. 具体的なドローンに関する規制

### (1) 監督機関からの認証の取得・ドローンの登録・許可

ANATEL	すべてのドローンは無線通信の認証が必要となる。なお、ブラジルで販売されているドローンの多くはすでに認証を得ているので、その場合、購入者が認証を改めて取得する必要はない
ANAC	・250 グラム以下のドローンは許可や登録は不要 ・250 グラムを超える第三種ドローンについては、目視外飛行ではなく、かつ、高度 400 フィート未満の飛行の場合は、ANAC の SISANT という簡易システムで登録すれば足りる

ANAC	・上記以外は ANAC の特別の許可が必要 ・ドローンの登録時に発行される識別情報はドローンの機体に付ける必要がある ・第一種・第二種ドローン、目視外飛行及び高度 400 フィートを超える飛行の場合は、ANAC から対空証明書を取得する必要がある
DECEA	一定の場合 (250 グラム以下のドローンなど) を除き、SARPAS というシステムによる登録が必要

### (2) 操縦ライセンス等

- 400 フィートを超える飛行をする場合並びに第一種及び第二種ドローンの場合は、操縦ライセンスが必要となる。
- 非娯楽目的のドローンの場合は 18 歳以上のみ操縦できる。
- 第一種及び第二種ドローンの場合並びに第三種ドローンの場合で 400 フィートを超える飛行を行う場合は、医師の診断書を取得する必要がある。

### (3) 飛行場所に関する規制

飛行場所についての規制は様々なものがある。以下では飛行場所に関する規制の一部を紹介する。

- 250 グラムを超えるドローンは、その目的にかかわらず、ドローン飛行と無関係の人から 30 メートル以上離れて飛行しなければならない。ただし、無関係の人の同意がある場合又は機体と人との間に遮蔽物がある場合は除く。
- 空港、刑務所、軍事施設等の重要な施設上空の飛行は禁止。
- 空港周辺については、高度によって飛行可能場所が異なり、また、DECEA の許可が必要な場合もある。
- ビルから 30 メートル以上離れて飛行する必要がある。

### (4) 飛行方法に関する規制

- 完全な無人飛行 (操縦士が飛行中コントロールできない飛行) はできない。
- 一度に複数のドローンを操縦することはできない。
- アルコール及びドラッグの影響下での操縦はできない。
- 人、動物、危険物等を運ぶことはできない。
- 娯楽目的の場合、都市部で飛行させる場合は高度 40 メートル以下及び時速 40km 以下、非都市部の場合は高度 50 メートル以下及び時速 100km 以下で飛行しなければならない。

### (5) 保険

非娯楽目的で 250 グラムを超えるドローンを飛行させる場合、保険に加入する必要がある。

## 5. 罰則

上記ルールに違反した場合は、航空法や ANAC、DECEA 及び ANATEL に規定される行政罰が適用される。また、ドローンにより海運、河川、航空輸送等の安全に危険を及ぼした場合などは刑法に規定される刑事罰が科せられる。さらに、ドローンによる写真・動画の撮影により第三者のプライバシーを侵害した場合には、民事上の損害賠償責任を負う。

# 社会負担金(PIS/COFINS)の課税標準額に関する 2021年5月13日の連邦最高裁判所の判決



ジュリオ アシス  
(KPMG サンパウロ事務所  
税務 & 法律パートナー)



三上智大  
(KPMG サンパウロ事務所  
マネージャー)



吉田幸司  
(KPMG サンパウロ  
事務所パートナー)

2017年3月、連邦最高裁判所(STF)は、PIS/COFINS の課税標準額から ICMS を除くとの判決を下したが、除くべき ICMS の金額は請求書上に記載されている金額 (Gross金額)、もしくは実際の ICMS 支払額をベースとする金額 (Net金額) かまでは不明確であったことから、当該判決後も多くの納税者により PIS/COFINS の課税標準額に関する訴訟が提起されていた。

2021年5月13日、STF は、PIS/COFINS の課税標準額から除く ICMS の金額の計算に関し主に以下の判決を下した。

### 1. 除くべき ICMS はGross金額

### 2. 判決の効力が及ぶ期間はそれぞれ以下の通り:

**1) 2017年3月15日までに納税者が訴訟を提起した場合:**  
納税者は過去の期間の PIS/COFINS クレジットを認識することができ、現在の PIS/COFINS の課税標準額から ICMS を除外することができる

**2) 2017年3月15日以降に納税者が訴訟を提起した場合:**  
納税者は 2017年3月15日以降、PIS/COFINS クレジットを認識することができ、現在の PIS/COFINS の課税標準額から ICMS を除外することができる

**3) 納税者が訴訟を提起していない場合:**  
納税者は、2017年3月15日以降、PIS/COFINS の課税標準額から請求書に記載された ICMS を除外することができるものの、当該期間から発生する PIS/COFINS クレジットの回収は特別なタックスルーリング (Súmula Vinculante) または行政府 (国税検察庁) による決議 (Ato Declaratório) 次第となる可能性

上記のように納税者有利とも言える判決が最高裁から出されたと言っても、未だに不明瞭な部分があり、各企業とも税務クレジットの認識の有無、計算方法、クレジット金額等について今もなお悩まれていることもあり、ブラジルの税務の難しさを改めて感じるどころである。

今回は当該判決から見るブラジル税務の難しさについて以下で私見を述べたい。

## ブラジルでビジネス遂行のために 「訴訟の必要性」を露呈

当該判決は、「世紀の裁判」と言えるが、この敗者の一人としてブラジルのビジネス環境が挙げられるだろう。

この判決は、連邦政府が憲法の疑わしい解釈に従い、いかなる手段をとって税収を増やすために法案を提出して連邦議会の承認を得ようとするブラジルの連邦政府が司法当局よりも強いという力関係を示す一つの例に過ぎないと考えられる。税務に関する法案は、通常、納税者の権利侵害の有無を検討するために必要な技術的評価がほとんど行われないうまま、連邦議会によって法律が承認される傾向にある。そのため、連邦政府が誤った立法措置に基づき過大な税金を徴収する可能性もあることから、

アグレッシブな納税者は、費用を掛けてでも、法律意見書を手したり、コンサルタントへサポートを依頼したり、更には訴訟を起こしたりしている。

本来であれば、連邦政府は、法律を調整する観点から、納税者によって指摘された誤った税額計算や誤った税法の解釈を修正するために連邦議会と一緒に問題を迅速に分析し、その結果、税務環境を改善し、納税者の予測可能性を確保する必要がある。当然の結果として、過大に支払われた税金が直ちに納税者へ全額返金されることが期待されるが、残念ながらこれが起きないのがブラジルの実情である。

連邦政府は、期待された対話や考察の代わりに、税務調査官や弁護士を配備して異議が唱えられる税金を課してきた。一方、司法当局は、膨大な数の訴訟へ対応しなければならないが、ブラジルの複雑な行政構造により、実にゆっくりと各訴訟が進行し、矛盾した冗長な判断が下されている傾向もある。また、企業側では、このような状況のために税務管理に多くの経営資源を注ぎ込まざるを得ない状況である。

納税者が最初に異議を唱えたときに、国家権力 (行政、立法、司法) が効率的かつ慎重に、そしてタイムリーに行動していれば、連邦政府がもっと効率的、効果的に正しい税金を徴収でき、そしてより適切な歳出を行っていたであろう。また、納税者にとっては、税法の解釈に関する司法の介入が減り、ビジネスを行うためのより良い環境が整備されたであろう。

今回の STF の判決が納税者にとってさらに不利な点として、訴訟を起こしていない納税者が 2017年3月15日以降に過大に支払った金額を取り返すためには、更なる手続きが必要となる可能性もあり、改めてブラジルの連邦政府が司法当局よりも強いという力関係の影響を示す判決結果となった。

この決定的な制度的メッセージは、税制は訴訟を起こす納税者、すなわち司法に助けを求める納税者のみを保護するというものであり、ビジネス環境の改善を促すものではないということである。

最後に、ブラジルのビジネス環境改善のためには、訴訟を減らし、税制を簡素化する必要があるが、残念ながら、ここブラジルでは、議論がまとまった後でも訴訟に発展してしまうケースがある。また、過大に支払われた税金の払戻しは税務当局によって自発的かつ迅速に行われないう可能性が高い。STF 判決を受けてもなお、悲しいことに企業は自分の権利を主張するために訴訟を起こす必要があるという現実があり、ブラジル税制が本当に難解なものであることの 1 つの象徴であろう。何とか税制改革により税制が簡素化されることを願うばかりである。

# ブラジルの歯科(その1)



星 淳子  
(H&A コンサルティング代表)

## センシティブな歯

我々は日頃から歯のケアを欠かさず、虫歯などを予防している。既に歯のことは熟知しており、今更歯のことなど…と思われるかもしれないが、「灯台下暗し」は、歯にも当てはまるかもしれない。今回は、そんな身近な歯をブラジルと日本との比較という観点から2回に分けてまとめてみる。

歯は体の消化器官の一部で、その入口に位置する。一言で歯と言っても役割は様々であり、例えば前歯は食べ物を切る役目、そして奥歯で砕いて、食道、胃へと送り出す。歯でしっかりと噛み砕かないと胃への負担も大きくなる。また歯が欠けると、口腔内のバランス(噛み合わせ)が崩れ、筋肉、喋り方にも影響が出てくる。

歯が欠ける病気としてよく知られているのは虫歯だろう。しかし歯の病気は年齢によってその性格が変わるため、虫歯だけ予防していれば良いというわけにはいかない。確かに子供の頃は虫歯になりやすいが、年齢が高くなるにつれ、歯周病や歯肉炎といった歯茎の病気が多くなっていく。

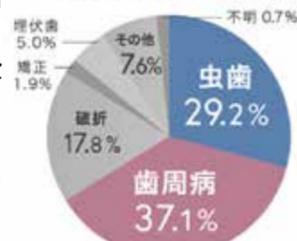
また、歯は大変センシティブでストレスに弱いことは意外に知られていない。例えば、海外へ赴任する前に、歯を全てチェックしたはずなのに、なぜか現地へ行くくと歯の痛みが出るケースがある。不慣れた異国での歯痛は辛い。歯科医を探すのも一苦労だが、病院で言葉が通じるかも不安になる。実は歯はストレスや食べ物の変化、生活リズムの変化にとっても敏感なため、海外へ行って突然歯が痛くなることは決して珍しくない。私のクライアントにも、そのような方がおり、症状にあった専門医を紹介したことがある。

## ブラジル国民の歯への意識

格差が残るブラジルだが、歯に対する国民の意識については大きな格差はないように感じる(歯のケアに使っている予算に格差はあると思うが…)。場所を気にせず、洗面台で歯を磨いている人を多く見かける。しかも、歯ブラシだけではなく、デンタルフロスもセットで使う人が多い。結構時間がかかるため、トイレで手を洗いたくても、なかなか洗えないといったことも珍しくない。

国民の多くは歯の病気だけでなく、美容歯科(歯並び、ホ

永久歯の抜歯原因



公益財団法人6020 歯医研  
「第2回永久歯の抜歯原因調査(2018年)」

ワイトニング等)への関心も非常に高い。ブラジルでは人を見る際、目線を口元に移すことが要因と考えられる。

ある記事によると、日本人は目を見れば相手の感情がわかるため、鼻から下はあまり見ないとのこと(注1)。確かに、日本の多くの絵文字は目を強調している。一方ブラジル人を含む欧米人は、目元だけではなく、口元にも注目し相手の感情を察知するため、常に見られる歯を気にするのだろう。ブラジルで生まれ育った私も、日本での生活が長くなったが、未だに相手の口元を見る癖がある。三つ子の魂、百までである…。

## ブラジルの歯科医

ブラジルで歯医診察を受けるには、歯科医院の予約が必要になる。治安の関係から飛び込みで歯科医に診てもらう事は、ほぼ不可能と考えておいた方が良く、予約後に歯科医院へ行くことが一般的だ。また患者一人あたりの診療時間が平均1時間と長く、一人の医師が診る患者数は1日平均10~16人と少ない(コロナ禍では、感染予防のため、さらに一日の患者数を減らしている歯科医院が多い)。日本の歯科医院を受診した際の印象は、診療時間が短いというものだったが、日本では平均24.1人(2014年)(注2)になっている事実はその印象を裏付けるものかもしれない。

ブラジルの歯科医は時間をかけ、患者に多くの質問をし、たくさん話を聞く。これは、症状を理解し、原因を見極めるだけでなく、患者との人間関係を築き、患者の求めを正確に理解する姿勢の表れである。歯科医と患者が、治療を通じて親友関係になる事はさほど珍しくない。

ブラジルでは、女性の歯科医の割合が多く、5割以上が女性歯科医(CFO- conselho federal de odontologia)である。他の仕事と比較し、勤務時間に柔軟性を持たせやすいことが理由の一つだ。一方、日本の場合は23.3%が女性、男性が76.7%(注3)であり、まだまだ男性社会と言える。私の同級生(ブラジルの歯科大学)も、同学年80人中男性はたったの12人と、圧倒的に女性が多かった。

歯科医院内の様子も日本とブラジルでは異なる。ブラジルでは歯科衛生士という資格や職業が存在しないため、治療は歯科医師が1人で行うのが一般的である。ただし、「tecnico em saude bucal, TSB」及び「auxiliar de saude bucal, ASB」という職業もあり、彼らのサポートを受けながら治療を行う歯科医も多少いる。これらの職業には、専門学校で学んだ後に就く者が多く、中でもTSBは日本の歯科衛生士に近い職業に思える。



櫻井聖子  
(フリーランス翻訳者)

## ブラジルでは果物は買わないもの?

挙げだしたらきりが無いブラジルで食べる数々の果物。筆者を含む無類の果物好きには天国、今回はブラジルならではの果物にまつわる体験エピソードをご紹介します。

ある日、ブラジル人の同僚が大量のマンゴーを職場に持って来てくれた。聞いてみると、日本大使館の斜め前のイスラエル大使館の前に落ちている熟れたマンゴーを同大使館警備員にウィンクしながら、通勤途中で拾ってきたという。ブラジルには、100万本にも及ぶ果樹が街のいたるところに植えてあり、マンゴー、ドリアン、レモン、グアバ、アボガド、ブラックベリー、柘榴などの果物が採り放題なのだ。ブラジルは植物区分においてセラードに位置しており、今注目を集めているアサイー、クアスなどのアマゾンの果物とは違った種類が豊富で、果物アイスやジュースとして食べるのも楽しい。ちなみに、このマンゴーは子供の手のひらにのるくらいの小振りの大きさで、果実の部分は大きくない。ブラジル人に言わせるとこのマンゴーは食べるものではなく、皮をむいて吸うものらしい。こういったブラジルに植えられている果物の場所と収穫時期を表す果物地図なるものが作られたりしており、たまにスーパーの空袋

を持って集めている人を見かけたりすることもある。でも、ブラジルでは路上駐車に注意。これらの木の下に車を置いてしまうと、幸か不幸か上から食べ頃の大きな果物が落下して車にへコミをつけかねないこともあるのでご注意ください!

10月のある日、サンパウロのイピラプエラ公園に散歩に行くと、ある木の回りに人が群がっている。近づいてみると、木の幹に気持ち悪い黒紫の実がなっていて、皆それをビニール袋に入れたり、食べたりしている。ご存知の方も多いと思うが、ジャブチカーバ。不思議なことにブルーベリーの5倍くらいの大きさはあるという実が木の幹から直接なっているのだ。ビタミンC以外にも強力な抗酸化物質を多く含むこの実をブラジル人は生で食べる他に、ジャムなどを作っているようだ。生では食べたことはなかったが、チョコレートやアイスなどブラジルならではの味を楽しんだ。

この記事を書くにあたって、サンパウロでも自由に取れる果物の場所が掲載されているHPが複数見つかった。プロの域に達すれば、もしかしたらブラジルでは果物は買うものではなくなるのかもしれない!?

## ジャーナリストの旅路

### ブラジル9年目に思う

市川亮太  
(時事通信社サンパウロ支局長)

前回の当欄登場は2015年3月号、ロサンゼルス特派員時代だった。元サンパウロ特派員として、当時担当していた米大リーグを無理やりブラジルに結び付けた原稿を書いたが、まさか三たび寄稿することになるとは思ってもみなかった。

17年にロスから横濱で2度目のサンパウロ特派員を命じられ、この6月、ブラジル通算9年目に突入した。商社やメーカーでは珍しくないが、特派員としては恐らく過去最長となる。めっきり白髪も増えてベテランの風格も漂っていることから、しばしば人から「さぞかしブラジルや中南米には精通しているんでしょ」と聞かれる。でも答えは「否」だ。

31歳で来伯した1度目は、今の日経新聞の外山君や読売新聞の淵上君のように、若さと好奇心に満ちあふれ、元気よく仕事をした(はずだ)。任期満了時にはいっばしの中南米専門家になったつもりだった。特に通信社は、ジャーナリスティックな視点というよりは事象を可能な限り単純化し、記事を速くコンパクトに読者に届けるのが仕事。ならば、そのくらいがちょうどいいのかもしれない。

しかしアラフィフに突入すると、ブラジル一帯をとっても複雑怪奇で不可知だなぁとしみじみ思う。前回の離任直前にブラジル人の嫁をもらい、日本で子供をもうけ、一昨年インテリオールに彼らの家を買った。ブラジル人に深く関わるにつれ、一生かけても完全理解などできないことが分かってきた。当時毎晩のように

飲み歩き、偉そうな戯れ言を我慢して聞いてくれた朝日新聞の和泉さん(退職、元足利市長)や日経新聞の岩城さん、NHKの中嶋さんらに謝りたい気持ちでいっぱいだ。

さて、「ジャーナリストの旅路」は終わったが、字数が余ってしまった。仕方ないので2度目の赴任で気付いた当地の「変化」を記すことにする。

仕事仲間には周知の事実だが、筆者は強盗や車の窃盗など、やたらとブラジルで犯罪に遭っている。前回赴任時は拳銃強盗が中心だったが、今回は強盗はたった1度。それも、奪われたのは腕時計と装飾品のみで、財布は最初から見向きもされなかった。前回は街中で現金と小切手しか通用しなかったが、今はガム1個買うのでさえ、デビットかクレジットのカード決済。現金を出すと「お釣りがない」と受け取りを拒まれる時代だ。強盗の方も、被害者がまとまった現金を持っているとは期待していないのだろう。

一度は「振り込め詐欺」に引っかかりそうになった。突然携帯が鳴り、ポルトガル語で「お宅の息子が事故に遭った」。日本ならば相手にしないがパニックに。焦ってやり取りをしているうち突然正気に返り、電話を叩き切った。つい最近は、SNSの乗っ取りと「身代金」要求も経験した。これも叩き切った。ブラジルでは政治も経済も社会も10年でさほど進歩していないが、少なくとも犯罪は着実にアップデートされているようだ。

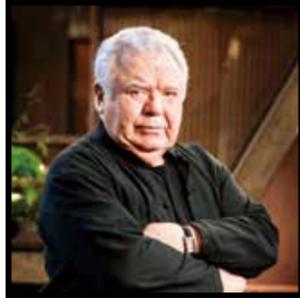
(注1) 日本と欧米、マスク着用で心理面に差 目は口ほどに物を言う yahooJapan.news  
(注2) https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/e.pdf  
(注3) https://www.jda.or.jp

# 追悼：建築家にして政治家 ジャイメ・レルネル クリチバを環境モデル都市に変貌させた 非ユダヤ的ユダヤ人

岸和田仁（「ブラジル特報」編集人）

## 計報

5月27日、建築家・都市計画家にして政治家（クリチバ市長を三期、パラナ州知事を二期務めた）として国際的に著名なジャイメ・レルネル元州知事（1937-2021）が亡くなった。享年83歳。今年3月、優先的ワクチン接種を受けた後、PCR検査でコロナ陽性が判明したものの症状は軽症で済んだのだが、5月に入って慢性腎臓病が悪化、これが死因となった由だ。



ユダヤ系ポーランド移民二世としてクリチバに生まれた彼は、同市を、環境にやさしい人間都市のモデル都市に変貌させた立役者であったが、この機会にジャイメ・レルネルという、パラナが生んだ逸材について、その業績と生涯をフォローしておきたい。

## あらためて「人間都市」クリチバについて

1950年は18万であったクリチバ市の人口は、1960年36万、1970年61万、1980年102万、2000年158万というように急増してきたが、1960年代からマスタープランを策定して計画的な都市政策を実施してきたおかげで、国連環境都市賞（受賞1990年）に象徴されるような、環境にやさしい都市となっている。その要点をメモすると；

### ①緑地政策

緑地政策としては、主要河川の流域に沿って公園を整備、民地における緑地保全制、樹木の伐採禁止条例などを実施した結果、「公園という緑と広場」が確保された。緑地の管理コスト急増に対する解決案が、「羊による草刈り」というアイデアの具体化であった。

### ②交通政策

RIT（統合輸送ネットワーク）と称されるバスを主体とする公共交通システムは、市内のどこへも均一料金で到達できるという画期的なものだが、1980年代から導入された。地下鉄と比較するとコスト面でもはるかに優れており、その中核となるBRT（Bus Rapid Transit）といわれるバス専用レーンとチューブ型バス停の有機融合方式は、ブラジルの他都市ばかりか世界各国でも採用されている。

### ③環境政策

「ごみ買いプログラム」、「ごみでないごみプログラム」、「緑との交換プログラム」などクリチバ独自のアイデアを実施しながら並行して環境教育も行う、という住民の現実に即した環境政策を展開してきている。



◀ BRT方式（バス専用レーン+チューブ型バス停）

## 都市計画家から政治家へ

ざっくりとクリチバの都市政策の実績について略記してみたが、この都市計画のマスタープランのコンペ（1964年）に参加した時は、レルネルはまだ大学生だった。すなわち、彼は、パラナ連邦大学工学部（土木工学科）を1960年に卒業してから、同大学建築学部（都市計画学科）に再入学し、1964年に卒業しているのだから、二つの学士を持っているのだ。

1971年初めて市長に当選してからは、市行政の責任者として、自分が立案した都市政策を実行していったが、当選した時「20年後にはクリチバ市民は、市に誇りを持ち、積極的に市政に関わるであろう」と宣言したことはつとに有名である。

彼は市長を三期（1971-75, 1979-84, 1989-1992）、パラナ州知事を二期（1995-2002）も務めたので、建築家人生よりも政治家人生のほうが長くなってしまったが、政治イデオロギー色は少ない、ブラジル人政治家としては珍しい人物であった。軍政時代は、与党（ARENA, PDS）に属し、後にプリゾーラ率いるPDT（民主労働党）に転じるが、1998年にはPFL（現DEM 民主党）、と政治的には中道の立場をとっていた。

政治家としての彼の功績は、ESG（環境・社会・企業統治）投資の理念を地方自治体に適合させ実行してきた、社会的先駆者であったといえることだろう。

## 世界のメディアが報じたこと

レルネル元州知事の逝去については、ブラジルの新聞、TVなどのメディアは主要紙から地方紙まで大きく取り上げていたが、AFPをはじめ多くの通信社も英語やフランス語などで詳しく計報記事を報じていた。そうしたメディアのなかでも特異なプレゼンスを示したのがJTA（ユダヤ通信社）のようなユダヤ系メディアであった。

JTAの記事は、「世界で最も影響力のある建築家・都市計画家であるジャイメ・レルネルが亡くなった。彼はブラジル・ユダヤコミュニティにも深く関与していた。」と書き始め、後半では、「わがユダヤコミュニティは、一人の偉大なユダヤ人を失い、ブラジルは一人の偉大な人物を失った」とのパラナ・ユダヤ連盟会長イサク・パリルの言を引いていた。

## 非ユダヤ的ユダヤ人

レルネルのルーツと同じユダヤ系ポーランド人の歴史家アイザック・ドイッチャーは、「非ユダヤ的ユダヤ人」（邦訳、岩波新書）において「ユダヤ人社会の限界を乗り越えた異端者」、「すべてユダヤ、非ユダヤの伝統主義や民族主義を越えて自由になったユダヤ人」を非ユダヤ的ユダヤ人と名付けたが、このドイッチャー的な意味において、レルネルはまさに非ユダヤ的ユダヤ人であった。

### ●経済成長率予想

6月7日に公表された最新の中銀フォーカスレポートによれば、2021年度のGDP成長率予想は、前回の3.96%から4.36%へと0.40%上方修正された。また2022年度の成長率予想は前回の2.25%から2.31%へと上方修正された。

### ●環境

国立宇宙研究所（Inpe）の発表によると、本年4月に伐採されたアマゾンの森林の面積は580km<sup>2</sup>で、4月の数字としては2015年以降、最悪の数字を記録した。これまでの記録は2018年4月の489km<sup>2</sup>。昨年4月（406km<sup>2</sup>）比では43%増。（5月7日付フォーリャ・デ・サンパウロ）

### ●世論調査

ダタフォーリャ社が5月11日から12日にかけて2,071人を対象に実施した世論調査（対面）によると、ボルソナーロ政権に対する評価、並びに現時点における大統領候補の支持率は以下の通り。

・**ボルソナーロ政権に対する評価**：「非常に良い/良い」24%（本年3月比6ポイント減）、「普通」30%（6ポイント増）、「悪い/非常に悪い」45%（1ポイント増）。今回、

「非常に良い/良い」は過去最低を記録した。

・**大統領選第1回投票**：ルーラ元大統領（PT）41%、ボルソナーロ大統領（無所属）23%、モーロ元法務治安相（無所属）7%、シロ・ゴメス元国家統合相（PDT）6%、ルシアノー・フッキ（無所属）4%、ドリャ・サンパウロ州知事（PSDB）3%、マンデッタ元保健相（DEM）2%、アモエド・NOVO党首2%、白票/無効票9%、未定4%。ルーラの41%に対し、ルーラ以外の候補の合計は47%で、その差は6ポイントとなっている。第1回目の投票で有効票の過半数を獲得した候補は決選投票の必要なく当選する。

・**決選投票**：ルーラ55%対ボルソナーロ32%。ボルソナーロ39%対ドリャ40%。ボルソナーロ36%対シロ・ゴメス48%。ルーラ53%対モーロ33%。ルーラ57%対ドリャ21%。ボルソナーロ対ルーラの場合、モーロの票はボルソナーロに流れ、ドリャ、シロ・ゴメス及びフッキの票はルーラに流れる傾向にある。

・**拒否率（この候補には絶対に投票しないと答えた者の割合）**：ボルソナーロ54%、ルーラ36%、ドリャ30%、フッキ29%、モーロ26%、シロ・ゴメス24%、マンデッタ17%、アモエド16%。（5月13日付フォーリャ・デ・サンパウロ）

キャンパス・コラム

## 初めてのブラジル留学

竹平健一  
（上智大学3年）

私はこの4月から、サンパウロ大学（USP）に留学をしている。留学といっても従来の現地へ渡航する留学ではなく、日本にいながインターネット経由でUSPの授業を受けるオンライン留学である。今後渡航できる可能性がゼロというわけではないが、新型コロナウイルスの影響で今のところ渡航できる見通しは立っていない。

USPでは哲学・文学・人間科学部に所属し、現在『ブラジル文学教育論』、『児童文学』、『音声学・音韻論』という3つの科目を履修している。特に興味深いのは『ブラジル文学教育論』で、この科目はブラジルの中等教育においてどのような文学教育が望ましいのかを文献閲読、他の学生との討論を通じ研究する科目である。もちろん授業の題材として取り上げられる文学作品を読むこと自体も純粋に面白いが、私が授業の中で“ブラジルらしさ”を感じた点は他にある。それは、学生が各作品の作者のバックグラウンドおよび当時の社会情勢に目を向け、なぜその作品が書かれたのか、その根本にある作者の心情はどのようなものか、を探ろうとする積極的な姿勢があるということである。決して日本人がそのような視点を持っていないと言いたいわけではない。周知の通りブラジルは「人種のるつぼ」と形容されるほど様々な人種が混在する社会であり、同時

に関連する格差、差別といった深刻な社会問題は現在も度々クローズアップされる。この授業の討論と結び付けて考えると、ブラジル人学生にとっては身近な存在である社会背景を常に頭の片隅に置きながら自身の考えをまとめ、発信しているということに私は気付いた。それは現代社会を考へるときも、文学作品を通じて過去を振り返るときも本質的に変わらないのであろう。

授業外では、グループワークなどを通じて知り合ったUSPの学生、特に日本語を学習している学生と個別に会話をしたりもしている。彼らと日本についてポルトガル語で話したり、時には私が日本語の質問に答えたりすることもある。総じて言えるのは、彼らは日本に対し好意を抱き、私のような留学生に対しても寛大に接してくれるということだ。オンライン留学という制約の中、実際に授業以外でポルトガル語を話す機会が少ないため、毎回非常に有意義に感じている。

正直現地へ渡航できない歯がゆさは今でも心の中にある。しかし、コンピュータ越しとはいえ実際にブラジル人と交流ができていくことに徐々に喜びを感じることができるようになってきた。いつかブラジルへ渡る日を夢見て、今日も自宅で一所懸命ポルトガル語を学習しようと思う。

## 新刊書紹介



### ◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

#### 『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』 (畑恵子・浦部浩之編)

サブタイトルが「貧困・差別・暴力なきグローバル世界を構築するためにラテンアメリカから世界が学ぶ」となっているように、核廃絶、環境保全、市民の国際連帯、LGBTの権利保障、教育開発、貧困削減、紛争解決、平和構築、地域間協力などのテーマに関して、ラテンアメリカから学ぶことが多いと考える識者たちによる最新論集。政情不安・経済混乱の地域は、地球規模の諸問題に真摯に向き合い、解決に向け挑戦を試行している地域でもある。  
(新評論 2021年2月 328頁 3,000円+税)

#### 『ガリンペイロ』(国分拓著)

NHKスペシャル「大アマゾン 最後の秘境」第二集「ガリンペイロ 黄金を求めた男たち」の担当ディレクター

によるノンフィクション作品。ブラジルで産出される金の大部分は非合法の金鉱山からガリンペイロによって掘り出されるが、己の体だけが資本といえるガリンペイロたちの現場に長期間入り込む、という危険な取材活動の日々を記録している。アマゾン奥地のどこか(安全上の理由から地名は伏せられている)の実態は驚愕的だ。  
(新潮社 2021年2月 334頁 1,700円+税)

#### 『格差社会考』(奥田若菜著)

主著『貧困と連帯の人類学』(2017年)は、首都ブラジリアとは中心と周縁に分断された格差社会であり、あらゆる意味においてブラジルの縮図であること、を明らかにした。その著者による、格差社会論入門である。ブラジル社会という格差社会の構造と実態を数字と歴史で再確認したうえで、日本、米国、イギリスにおける格差社会論を検討し、ブラジルの人種論争もきちんと復習している。公正な社会を目指すことの意味を読者に考えさせる著書だ。  
(神田外語大学出版局 2021年4月 180頁 1,200円+税)

#### 『辺境の地で働いて』(有水博著)

元大阪外大教授による自分史的回顧

エッセイ集。大卒後入社した水産会社で経験したアンゴラ短期駐在記録から始まり、外交官時代のアマゾン勤務、ギアナ三国出張、1974年の「カーネーション革命」直後のポルトガルにおける実体験が語られ、1970年代後半のブラジル情勢、クーデター直後の緊迫したボリビアでの「脱出劇」をノンフィクション風に記録している。大学教員時代の話は語られていないが、外交現場の実態は「小説よりも奇なり」だ。  
(文芸社 2021年5月 188頁 1,200円+税)

#### 『アマゾンにおける市民権の生態学的動態』(後藤健志著)

人類学徒としてアマゾンやマトグロッソにおける現地調査を深耕した著者は、植民、農地改革、土地なし運動を考察の対象とした。富の不平等の是正を目指した革新的な取り組みとして注目されていた「土地なし運動」と「農地改革」の関係性に着目し、アマゾン地方での植民を、「占有の観点から、市民権の生態学的動態」として把握していく。この人類学的考察の成果である博士論文を発展させたものが本書である。  
(明石書店 2021年3月 316頁 5,400円+税)

## !!「ブラジルあれこれ」!!

### ▼パウロ・シャープス



### パウロ・シャープス(1)

去る3月17日、パラ州を代表する建築家パウロ・シャープス(Paulo Chaves Fernandes)が亡くなった。75歳だった。ベレンの街を愛し、建築家としてその都市計画の実現に全力で取り組んだパウロ・シャープスの死に、パラ州出身の歌手ファファ・デ・ベレン(Fafá de Belém)はじめ、建築関係、文化関係、政財界からも多くの人がその死を悼むコメントを発表している。

ベレンを訪問した人ならアマゾン河畔にある、ベレンを代表する市民の憩いの場であり観光スポットでもあるエスタソン・ダス・ドカス(Estação das Docas)を訪れた人も多いだろう。数あるパウロ・シャープスの作品の一つだ。旧ベレン港の施設を改修したもので、ビアガーデン、レストランや土産店がテナントとして入居する他、展示場、劇場やライブ用ステージなどもある総合文化・観光施設だ。ビアガーデンにはクラフトビールの製造設備が併設されており、グアジャラー湾に沈む夕日を眺めながら製造所のタンクから直接提供されるアマゾン果実のアサイー味やバクラー味などの風味豊かなアマゾンビールを楽しむことができる地元の人気スポットだ。岸壁の数基の英国製クレーンは、ゴム景気に沸く19世紀後半のベレン港で使われていたものがそのまま残されている。パウロ・シャープスの建築家としてのセンスが光る作品だ。

ベレンの都市計画におけるパウロ・シャープスの存在感には目を

見張るものがある。それは、同人がベレン市やパラ州政府の責任者として設計した公共の建物が多いからだ。これらの建物を見ていると、彼は歴史的建造物を現代的用途に適応させるべく改修し蘇らせることを得意としている。その都市計画を通じベレンの歴史が巧みに表現されている。

かつて彼自身の仕事場だった州政府文化局(SECULT)の建物があるバルケ・ダ・レジデンシア(Parque da Residência)は、その名前(Residência)の通り、もともと州知事の公邸があったところだ。現在では、州政府文化局が入る建物の他、元のガス会社の工場を改修した文化スペースで、400人収容の劇場や野外ステージ、展示スペースがあるエスタソン・ガゾメトロ(Estação Gasômetro)、約400種の蘭を展示する植物園などがある。一般的な西洋料理に加えパラ州の郷土料理パト・ノ・トゥクピー(Pato no tucupi)やマニコーバ(Maniçoba)が毎日供されるブッフェ形式のレストランであるレストー・ド・バルケ(Restô do Parque)(現在の別の店が営業中)は食通だったパウロ・シャープスのお気に入りだった。ヨーロッパ製の敷石や建材がいたるところで使われる公園は、20世紀初頭のベル・エポックと呼ばれたゴム景気の時代のベレンの面影が残る都会のオアシスだ。(続く) (MK)



(左) エスタソン・ダス・ドカス (右) バルケ・ダ・レジデンシア

Churrascaria  
Que Bom!  
www.que-bom.com

Produzido pela  
ATHLETA®

LOJA ASAKUSA  
TEL: 03-5826-1538  
TOKYO-TO TAITO-KU  
NISHI ASAKUSA 2-15-13 Nikkoshi B1F

LOJA SHIMBASHI  
TEL: 03-6402-5685  
TOKYO-TO MINATO-KU  
SHIMBASHI 4-1-1 SHINTORA CORE 2F

## 日本ブラジル中央協会

### イベントのご案内

#### イベントのご案内

#### 原 JETRO サンパウロ事務所長 オンライン講演会 演題：ブラジルの経済情勢とビジネス環境

日時：2021年7月13日(火) 10:00~11:00 <日本時間>  
開催方式：zoom ウェビナー  
参加費：[会員] 無料(会員の在ブラジル関連企業の駐在員も含む)  
[非会員] 1,000円

ブラジルにおける新型コロナへの感染者数は、ワクチン接種が進むにつれ若干の減少傾向を見せているものの、相変わらず、世界二位の感染者数、死者数を記録しています。しかしながら、本年第1四半期のGDP成長率は、前期比+1.2%となり、新型コロナ流行前の水準に近付き、また、最新の中銀フォーカスでは、2021年度GDP成長率予想は前回の3.96%から、0.4%上方修正され、4.36%となるなど、明るい兆しが見え始めています。また貿易収支の改善とブラジル中銀による積極的な利上げもレアルの堅調な動きに繋がっています。こうしたブラジル経済の最新情勢とビジネス環境につき、原所長にサンパウロから講演頂きます。

#### ブラジル 駐在員夫人のための渡航前オンラインセミナー

日時：2021年9月25日(土) 9:30~12:00 頃  
開催方式：zoom ウェビナー  
参加費：会員企業の駐在員の配偶者 2,000円  
非会員 3,000円  
(夫婦で参加の場合は、+1,000円)

講師：伊藤 智晴(元丸紅駐在員夫人)  
山口 セシリア(在サンパウロ、長年サンパウロで日本企業に勤務)  
高嶋 協会理事(元住友商事、在ブラジル21年)  
原島 課長(日本通運) ※予定

過去に沢山の方が受講し、好評を頂いている本セミナー。同じ立場の仲間と共に、具体的な現地情報に触れ、ご自身の新生活のイメージを考える機会にしましょう!

皆様のご入会を心よりお待ちしております

#### 法人・個人・学生

### 新規会員募集中

会員数 法人会員 104社  
(2021年6月現在) 個人会員 約470名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

#### 会員特典

- 協会会報「ブラジル特報」の無料配布  
隔月発行、年6回配布。
- 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に、参加できます(会員限定イベントへも参加いただけます)
- 会員交流懇親会へ参加いただけます
- ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

#### 年会費

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円  
(2口以上) (1口以上)

※入会金は不要です

#### お申し込み



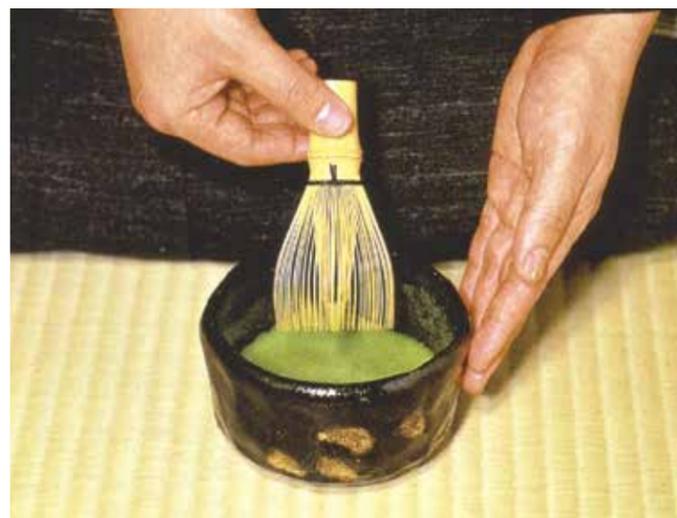
《日本ブラジル中央協会公式HP》  
https://www.nipo-brasil.org

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。



一盃から  
ピースフルネスを



茶道裏千家 HP: [www.urasenke.or.jp](http://www.urasenke.or.jp)



裏千家ブラジル出張所 HP: [www.chadourasenke.org.br](http://www.chadourasenke.org.br)



# ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



ブラジルでビジネスや生活をする上で  
欠かせないのがポルトガル語です。  
BrAsia(ブレイジア)では、  
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。  
「講師任せにはしない」  
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。

**BrAsia** (ブレイジア) 運営: 株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階  
TEL03-6263-0716  
お問い合わせは E-mail: [brasia@kanwajuku.com](mailto:brasia@kanwajuku.com) HP: <http://brasia-j.com/>



**citrosuco**  
Much More Than Juice!

## Be Sustainable!

シトロスッコ社は  
フェアトレードオレンジ果汁を通じて  
家族経営農家を支援しています。

日本フルーツジュース株式会社  
新住所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1  
有楽町電気ビル南館10階  
Tel: 03-6453-6733 Email: [sales@nfj.co.jp](mailto:sales@nfj.co.jp)

[www.citrosuco.com.br](http://www.citrosuco.com.br)

## Vamos jogar Frescobol!

ブラジル、リオデジャネイロ発祥のビーチスポーツ!  
一緒にフレスコボールを楽しみましょう!



リオデジャネイロの  
無形文化遺産

フレスコボールは2人のペアが協力してラリーを続けて、他ペアと競う競技です。  
日本国内でも競技人口が増えて続けており、全国各地に地域クラブが設立されています。  
競技に関することや、地域クラブ設立にご興味のある方は、是非ご連絡ください!

#Play  
**Frescoball**  
JFBA 日本フレスコボール協会  
公式ストア

公式ストア読者限定クーポン

<https://store.frescoball.org/>

クーポンコード: **H5SPTW2V**

協会スタッフ募集中

来たれ!  
ポルトガル語が堪能な  
イベント・スポーツ好き!

JFBAでは、スタッフを募集しています。イベント好き、  
スポーツ好きな人は是非ご連絡お待ちしております!



LINE



Twitter



Facebook



公式ストア

**JFBA** 一般社団法人日本フレスコボール協会  
Japan Frescoball Association

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-43-11 キッドアイラックビルディング2F  
TEL:03-6304-3295 WEB:<http://www.frescoball.org> EMAIL:[contact@frescoball.org](mailto:contact@frescoball.org)



# TDB

## TRADE & DEVELOPMENT BANK

### モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

## “蒼天よりも高く”

突き抜けるような雲ひとつない青い空 — 蒼天(そうてん)

モンゴルは蒼天の国です。そのモンゴルでリーディングバンクとして活躍している銀行がTDBです。日本とモンゴルの間の貿易・投資に関わる貿易金融や外国為替を取り扱っています。私たち東京駐在員事務所はモンゴルの蒼天につながる日本の玄関口です。日本のお客様からのご相談をお待ち申し上げております。



### モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1

丸の内永楽ビル2303

TEL: 03-4588-3945

FAX: 03-4588-3947

<http://tdbm.jp/>

詳しくはコチラ→



◎最寄り駅: 東京メトロ東西線大手町駅B1出口直上